

有機農業 アジアと連携

新庄村・AMDA・岡山商大協力

有機農業をアジアに広げる新庄村の取り組みに、医療NGO「AMDA」と岡山商大が協力することになった。10日、三者が村役場で発表した。約1畝の農地で農薬や化学肥料を使わない農法を研究しながら、ベトナムやフィリピンなどとの人的交流を進める。

近くベトナムへ調査団

新庄村は4月1日、「アジア有機農業プラットフォーム」推進条例を施行。これに賛同するAMDAの菅波茂理事長、岡山商大の岸田芳朗教授らが9日、これに連携する「活動推進協議会」を発足させ、村内で有機農業に取り組み稲田泰男さんを会長に選んだ。

農地は菅波理事長が個人で買い上げ、稲田さんらが耕作を担当。今年は60坪で米、40坪でトウモロコシや大豆を栽培する。すでに田には堆肥や粉炭を入れて荒おこしを済ませ、20日ごろ田植えをする。ゼミ学生と参加する岸田教授は約180～200羽のアヒルを田に入れ、独特の有機農法に取り組み。

アジア各国との連携を担うAMDAの菅波理事長



稲田泰男会長から田植えの準備状況を聞く菅波茂理事長（右）＝新庄村の野土路地区

は、ベトナムで20畝の農地を取得し、農薬として効果のあるニームの木12万本の植樹を進めている。協議会は3カ月以内にベトナムへ調査団を派遣し、有機農業の実態調査や研修生の受け入れを急ぐ。将来は、アジア各国に「新庄ファーム」を整備するという。

新庄村を選んだ理由について菅波理事長は、「合併しない宣言をした新庄村は豊かな自然に恵まれ、有機農業を実践する舞台にふさわしい」と話す。

アジアでの有機農業について岸田教授は「技術的、規模的にこれからで、村への期待は大きい」。笹野寛村長は「村が日本の有機農業の基地、といわれるようなレベルに上げたい」と話している。（中村二郎）